

6
読 む
短歌を味わう
〔確認〕
名 前

やってみよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

五七五七七の三十一音（みそひともし）で表現される定型の詩を短歌といいます。世界の文学作品と比べてみても、三十一音で表現するというのは、珍しいものです。この形式は、千年以上も前から今に至るまで続いています。そして、このたった三十一音に、恋する気持ち、人の死を悲しむ気持ち、望郷の思いや四季の移り変わりなど、実に様々なことが詠み込まれています。

A くれなゐの 二尺伸びたる ばらの芽の

針やはらかに 春雨のふる

Aは正岡子規の短歌です。紅色のばらの芽、その上に降り注ぐやわらかい春雨。「やはらかに」という言葉の意味を「a」「b」にもひびかせて、全体として美しい情景を描いています。子規が病床から庭をながめた情景を見たまま、あるがままに表現しています。これを「c」といい、子規の短歌の特徴ともなっています。

B やはらかに 柳あをめる

北上の 岸边目に見ゆ

泣けとごとくに

Bは石川啄木の短歌です。優しく明るい故郷の春の様子を、「泣けとごとくに」という望郷の思いを誘います。啄木の故郷は、岩手県の北上川のほとりにある渋民村というところですが、啄木はつらい思いで故郷を去りました。その後の思つよつにいかない生活の中で、故郷への帰るに帰れないせつなさなどの気持ちを多く短歌に詠んでいます。

一 Aの短歌の句切れについて説明したものと、適切なものの中から選んで書きなさい。

- ア 初句切れになっている。
- イ 二句切れになっている。
- ウ 句切れなしになっている。

二 「a」「b」に当てはまる適切な言葉を文章中からそれぞれ書き抜きなさい。

a

b

三 「c」に当てはまる言葉を次のア～ウの中から一つ選んで記号で書きなさい。

- ア 写実
- イ 写生
- ウ 信実

四 線部「優しく明るい故郷の春の様子」が表れている部分を、Bの短歌の中から探して書き抜きなさい。

五 Bの歌のような石川啄木に特徴的な短歌の表記法を何と言いますか。

六 Bの短歌の「泣けとごとくに」に使われている表現技法を次のア～エの中から二つ選んで記号を書きなさい。

- ア 倒置法
- イ 反復法
- ウ 比喻法
- エ 体言止め